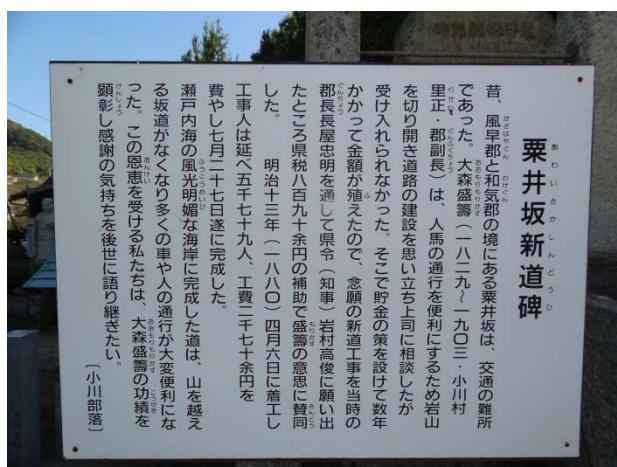


～新しい道 (粟井坂) をつくった男～

おおもり もりかず
大森 盛籌



「小川大師堂」に建てられた
粟井坂新道碑の説明書

江戸後期～明治前期の庄屋。

伊予の国（愛媛県）風早郡小川村の庄屋として、ため池づくり、川、道路の工事など、いろいろな事業に取り組んだ。中でも当時とても険しい山道だった旧北条市と松山市を結ぶ、「粟井坂」をみんなが歩きやすい道にした。

経歴

- 1829年 伊予の国(愛媛県)風早郡小川村に生まれる。
- 1834年 5才で小川村庄屋役を受けつぐ。
- 1845年 16才で、ため池の「岩瀬戸下池」をつくる。
その後、川や道路を直したり、学校をつくる。
- 1880年 **粟井坂新道**の工事開始～完成。
- 1888年 息子の盛直が盛籌の優れた働きを称え、小川大師堂の境内に粟井坂新道碑を建てる。
- 1903年 74歳で亡くなる。

1 ^{けわ}とても^{あわいざか}険しかった栗井坂

昔の栗井坂は、堀江の大谷口から狭い山道を上がり、関所（出入りする人を調べる所）跡をあと通って小川の大師堂へと下りていく道で、高い山が海の近くまであるので、海岸沿いを通ることができず、険しい山道を歩くか馬に乗るかして越えなければなりませんでした。

正岡子規は、栗井坂を通ったときに、こんな俳句を詠んでいます。

「涼しさや 馬も海向く 淡井坂」

また、栗井坂には「追いはぎ」という強盗ごうとうが出るがありました。真っ暗な夜道に、ほおかぶりをした大男が、お金や荷物、着物まで奪うばっていくので、夜中に栗井坂を通ることを、とても怖がっていました。

2 ^{ちいき}地域の^{はってん}発展に^つ尽くした^{もりかず}盛籌の^{はたら}働き

おおもりもりかず大森盛籌は、風早郡小川村（今の松山市小川）に生まれ、わずか5才で村の代表である庄屋しょうや役を父から受け継ぎ、一生懸命に勉強して、村人のために、ため池づくり、川や道路の工事、学校づくりなど、いろいろな事業に取り組みました。また、地域の発展に役立てるため、税金をきちんと納めるように働きかけました。

そして、人々の信頼を集め、47才で地域の総代そうだい（代表）となりました。人々のため、地域の発展のために尽くしてきた盛籌もりかずにとって、栗井坂に新しい道をつくることは、長年の願いでした。

もりかず盛籌は、数年かけて、今のお金に直して約885万円も貯めました。新しい道をつくるためには、まだまだお金が必要であったため、愛媛県知事に新しい道をつくることの大切さを、地域の代表として懸命けんめいにお願いした結果、県知事は盛籌もりかずの気持ちに心を打たれ、道をつくるために愛媛県の税金ぜいきんから必要なお金を出すことにしました。

3 新しい道をつくる

いよいよ新しい道をつくる工事が始まりました。山側では、山の麓^{ふもと}を削^{けず}って平らな道をつくります。当時はダンプカーやローラー車などの便利なものはなく、「のみ」や「つるはし」、「もっこ」、「じょうれん」などの道具を使って、人の力で行われました。

そのため、硬い岩をくりぬくのに、何日もかかったり、湧^わき水が出てきて工事をやり直したりすることが度々^{たびたび}あるほど、危険^{きけん}な工事でした。

海側では、波を防ぐために海岸沿いに石を積み重ねる工事をしましたが、波が押し寄せ、途中で工事をやめなければならないことが何度もあったため、波の勢^{いきお}いを弱めるための工事も必要でした。

盛^{もり}籌^{かず}は、「とても大変な作業だが、人々のためになんとしても新しい道を完成させよう。」と工事にかかわる人々を精一杯^{せいいつぱい}励まし続け、長さ約 530m、幅約 3.6m、高さ約 14mの粟井坂新道が完成しました。

工事には、約 4 か月、延べ 5,079 人の力が必要でした。険しい山道であった粟井坂が、海岸沿いの平らな新しい道に変わり、人々はとても喜び、盛^{もり}籌^{かず}たちに感謝しました。



息子の盛直が盛籌の優れた働きをたたえ、「小川大師堂」に粟井坂新道碑を建てた。



現在の粟井坂（県道平田北条線）。
右手は国道196号粟井坂トンネル。

